

あいサポートキッズ

学習指導ガイド

小学校4年～6年生対象



鳥取県障がい福祉課

障がい者福祉の父『糸賀一雄』

戦後、わが国の福祉と教育に新たな道を開き「障がい者福祉の父」と呼ばれる糸賀一雄は、大正3年、鳥取市立川町に生まれ、旧制中学卒業まで県内で過ごします。京都帝国大学で宗教哲学を学んだ後、滋賀県庁に入り、秘書課長などを歴任しました。

しかし、戦後の混乱のなか、ちまたに放置された戦災孤児や知的障がいのある子どもたちを目の当たりにし、「この子どもたちの教育と福祉の実践こそが戦後の日本再建の最も大切な事業」と、同志とともに近江学園を創設します。教育と生活、治療と教育（療育）を一本化し、四六時中子どもたちと「共に生きる」ことを運営の原則としたユニークで先駆的な障がい児施設の誕生です。

その後も多くの施設を手がけるほか、国の法制度改革など福祉と教育の発展のために一生を捧げました。「この子らを世の光に」。この言葉は、糸賀の信念そのもの。恵まれないかわいそうな「この子らに世の光を」当てるのではなく、障がいのある「この子ら」の存在そのものが世を明るくする光。その光に気づく人々を増やすのが自分たちの仕事であると、昭和43年に54歳で亡くなるまで繰り返し訴え続けました。こうした先駆的な活動は、現在に至るまで、わが国の福祉施策の推進に大きな影響を与えています。

この子らを世の光に

糸賀の残した言葉に、その福祉思想を見ることができます。

「この子らはどんな重い障がいをもっているとしても、だれと取り替えることもできない個性的な自己実現をしているものである。人間と生まれて、その人なりに人間となっていくのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。

私たちの願いは、重症な障がいをもったこの子たちも立派な生産者であるということ、認め合える社会をつくらうということである。『この子らに世の光を』あててやろうという哀れみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよ磨きをかけて輝かそうというのである。『この子らを世の光に』である。この子らが、生まれながらにして持っている人格発達の権利を徹底的に保障せねばならぬということなのである。」

はじめに

■ 学習指導ガイド作成の目的

あいサポート運動は、誰もが、様々な障がいの特性、障がいのある方が困っていることや、障がいのある方への必要な配慮などを理解して、障がいのある方に対してちょっとした手助けや配慮などを実践することにより、障がいのある方が暮らしやすい地域社会（共生社会）を実現することを目的として、鳥取県で創設されました。

この運動を一層進めるため、学校の授業で「あいサポート運動」を取り上げていただくなどして、あいサポート運動の未来の担い手になってもらいたい児童に対し、障がいのある方が暮らしやすい地域社会（共生社会）について関心を持っていただくきっかけとして活用していただけるよう作成しました。



あいサポート運動 シンボルマーク

障がいのある方を支える「心」を2つのハートを重ねることで表現しました。

後ろの白いハートは、障がいのある方を支える様子を表すとともに、「SUPPOTER（サポーター）」の「S」を表現しています。

ベースとしている「橙色（だいだいいろ）」は、鳥取県出身で日本の障がい者福祉に尽力された糸賀一雄氏の残した言葉「この子らを世の光に」から「光」や、「暖かさ」をイメージするものとしています。

また、「だいだい（代々）」にちなみ、あいサポーター（障がい者サポーター）が広がって、共生社会が実現されることへの期待も込められています。

「あいサポート」とは

「愛情」の「愛」、私の「I」に共通する「あい」と、支える、応援する意味の「サポート」を組み合わせ、障がいのある方を優しく支え、自分の意志で行動することを意味しています。

あいサポート運動とは

共生社会の実現を目指して

鳥取県では、平成21年11月28日に「あいサポート運動」を創設し、「あいサポート運動～障がいを知り、共に生きる～」に取り組んでいます。

この運動は、誰もが、様々な障がいの特性、障がいのある方が困っていることや、障がいのある方への必要な配慮などを理解して、障がいのある方に対して「ちょっとした手助けや配慮」などを実践することにより、障がいのある方が暮らしやすい地域社会（共生社会）を実現することを目的としています。

運動が生まれた背景

誰もが地域の中でいきいきと暮らしていくためには、障がいがあろうとなかろうと地域から理解されていることが必要です。

たとえば、

- ・点字ブロックの上に自転車などが置いてあると視覚障がいのある方は歩けない。
- ・聴覚障がいのある方は、駅で電車が遅れているという放送が聞こえない。
- ・知的障がいのある方で、言葉や行動の意味が相手に伝わらず、誤解や偏見を受けることがある。

等々の声が多く寄せられていました。障がいへの無理解や偏見などが障がいのある方の社会参加や能力発揮を拒むことがあります。こうした障がいの特性を知っていると、障がいのある方への接し方が変わってきます。

このような背景から、鳥取県は全国に先駆けて、12種類の障がいについて、「①その内容と特性」、「②日常生活で困っていること」、「③ちょっとした手助けや配慮の方法」の3つを多くの人に知ってもらい、「あいサポーター」として地域の中で実践してもらおう運動を始めました。

あいサポーターの養成

地域住民や企業・団体に対して、障がいの特性や配慮をまとめたDVDやパンフレットを活用して研修会を実施し「あいサポーター」の養成を行っています。障がいのある方が暮らしやすい地域社会（共生社会）を実現するため、日常生活において障がいのある方が困っているときなどにちょっとした手助けをする意欲のある方なら、誰でも「あいサポーター」になることができます。（特別な技術の習得は不要です。）

広がるあいサポート運動

平成23年3月には鳥取・島根両県において「あいサポート運動の共同推進に関する協定」調印を行い、同年12月には鳥取県と広島県において「あいサポート運動の連携推進協定」の締結が行われました。これにより3県で連携して運動していくこととなりました。

学習指導ガイドの活用にあたって

学習指導ガイドは、障がいのある人等が出演しているDVDやワークシート例を活用して、授業を行っていただく際の参考にしてください。

学習ガイドの構成

[P1] あいサポート運動とは

- あいサポート運動について紹介

[P2] 学習指導ガイドの活用にあたって

- 学習指導ガイドの目次

[P3～P6] DVDの内容、学習の要点、障がいへの理解と手助け

- DVDの収録内容、期待される学習効果、学習の方法、障がいへの理解と手助けについて紹介しています。

[P7～P8] ワークシートの例

- ワークシートは適宜コピー、改作等して活用してください。

[P9～P13] 各障がいの特性など

- 視覚障がい
- 聴覚・言語障がい
- 肢体不自由
- 知的障がい
- 精神障がい

[P14～P18] 参考資料

- バリアフリーとは
- ユニバーサルデザインとは
- 私たちの身近なユニバーサルデザイン
- 手話

[P19] あいサポートキッズ学習実施報告書

- 学習指導ガイドを活用して授業を行ったら「鳥取県福祉保健部障がい福祉課」に報告をお願いします。
- 学習した児童に対し『あいサポートストラップ』を差し上げます。（事前送付も可）

共に活用すると有効な資料

- ◆ 「みんなですすめよう福祉のまちづくり」(小学4年生向け)を使用した授業での活用を推奨します。(県福祉保健課作成)
- ◆ 「障がいを知り、共に生きる」(あいサポーター研修用小冊子)を先生用参考資料として活用を推奨します。(県障がい福祉課作成)

DVDの内容

DVDは、チャプターに別れていますので、授業で取り上げるテーマにより、選択して活用してください。

区 分	時間	DVDの内容
オ ー プ ニ ン グ	2分30秒	<p>●導入としてのナレーション</p> <p>障がいのある方が困っていたら声をかけて手助けしよう。誰もがそう思っています。</p> <p>でも、どうしていいのか、どう声をかければいいのか、戸惑ってしまう。それが正直な気持ち。</p> <p>そんなあなたの気持ちを、みんなの勇気を応援します。あいサポート運動に参加して、まず、知ることからはじめましょう。</p>
視 覚 障 が い	3分53秒	<p>★ 障がい者本人、保護者、支援者が出演し、障がいの特性等を紹介しています。</p> <p>① 障がいの特性について</p> <p>② 生活する上で困っていること</p> <p>③ 思いやりや手助けについて</p>
聴 覚 ・ 言 語 障 が い	4分22秒	
肢 体 不 自 由	3分08秒	
知 的 障 が い	3分09秒	
精 神 障 が い	3分44秒	
あいサポート運動とは エ ン デ ィ ン グ	3分47秒	<p>●あいサポート運動の紹介</p> <p>●終わりのナレーション</p> <p>誰もが、お互いにわかりあい、共に生きる温かな地域共生社会を実現するために障がいを生じる可能性は誰にでもあること</p> <p>障がいは多種多様でその特性はさまざまであること</p> <p>外見でわかるものだけではないこと</p> <p>理解されずに苦しんでいる方がいること</p> <p>誰もが暮らしやすい社会を実現するためにまず知ることからはじめましょう</p> <p>それが一緒に暮らすことへの第一歩になることを信じて</p>
学 習 用 再 生 時 間	24分33秒	

学習の要点

<p>期待される 学習効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある人もない人も相手の気持ちや立場を考え、支え合いながら生活することの大切さを知る。 障がいの特性や配慮を正しく理解し、学習した必要な配慮を生活の中で実践しようとする気持ちを育てる。 自分の生活を振り返りながら、バリアフリーやユニバーサルデザイン、共生社会について考え、相手の気持ちや立場を思いやる心を育てる。
<p>学習の 気づき</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある人の生活を理解し、障がいのある人の気持ちを考える。 障がいのある人は、こんなところで困るかも知れない。 生活する上で困ることやどんな配慮があればいいか。 どんなことが手助けとなるか。 障がいの不便さを知るだけでなく、輝く面についても感じ取る。
<p>学習を進める 上での 留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある人＝かわいそうではない。 ネガティブなイメージばかりを植えつけないよう配慮する。 障がいの不便さを知るだけでなく、輝く面などを感じ取ることができるようになる。 「～してあげる」という意識ではなく、共に社会の中で生きていく仲間として、相手を思いやり手助けしたり、自分のこれからの生き方を考えたりすることができる学習展開となるようにする。

※ 希望により「教職員・保護者向けのあいさポーター研修」も行っています。

学習の要点

学習の方法	<p>(例えば)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを決める。(例)「共に生きる～今私たちにできること」 ・ DVDを見る前に、障がいやバリアフリー等について、子どもたちに「思っていることや」、「知っていること」を発表させる。 ・ DVD視聴後、子どもたちに意見を発表させることにより、学習を深めてゆく。 ・ ワークシートに、学んだことを記入する。
	<p>[体験学習]</p> <p>★ 体験することで、障がいのある人の生活を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイマスクを着用して活動してみる。 ・ 二人一組で、一人は目を閉じ、もう一人が案内役となり歩行体験(ブラインドウォーク)してみる。 ・ 耳栓などして会話してみるなど体験して、聞こえない世界を想像してみる。 ・ 車いすを使って体験してみる。 <p>*貸出等については、各地域の社会福祉協議会にご相談ください</p>
	<p>[交流学習]</p> <p>★ 交流することで、不便さを知るだけでなく、輝く面を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者、ボランティア活動をしている人、障がい福祉の仕事に従事している人、社会福祉協議会の職員などをゲストティーチャーとして招いて交流する。 ・ 地域の障がい福祉作業所と交流し共に作業などする。 <p>*ゲストティーチャーや福祉学習などの相談は、県・市町村社会福祉協議会等にご相談ください。</p>

※ 学習した児童にはあいサポートストラップを差し上げます。

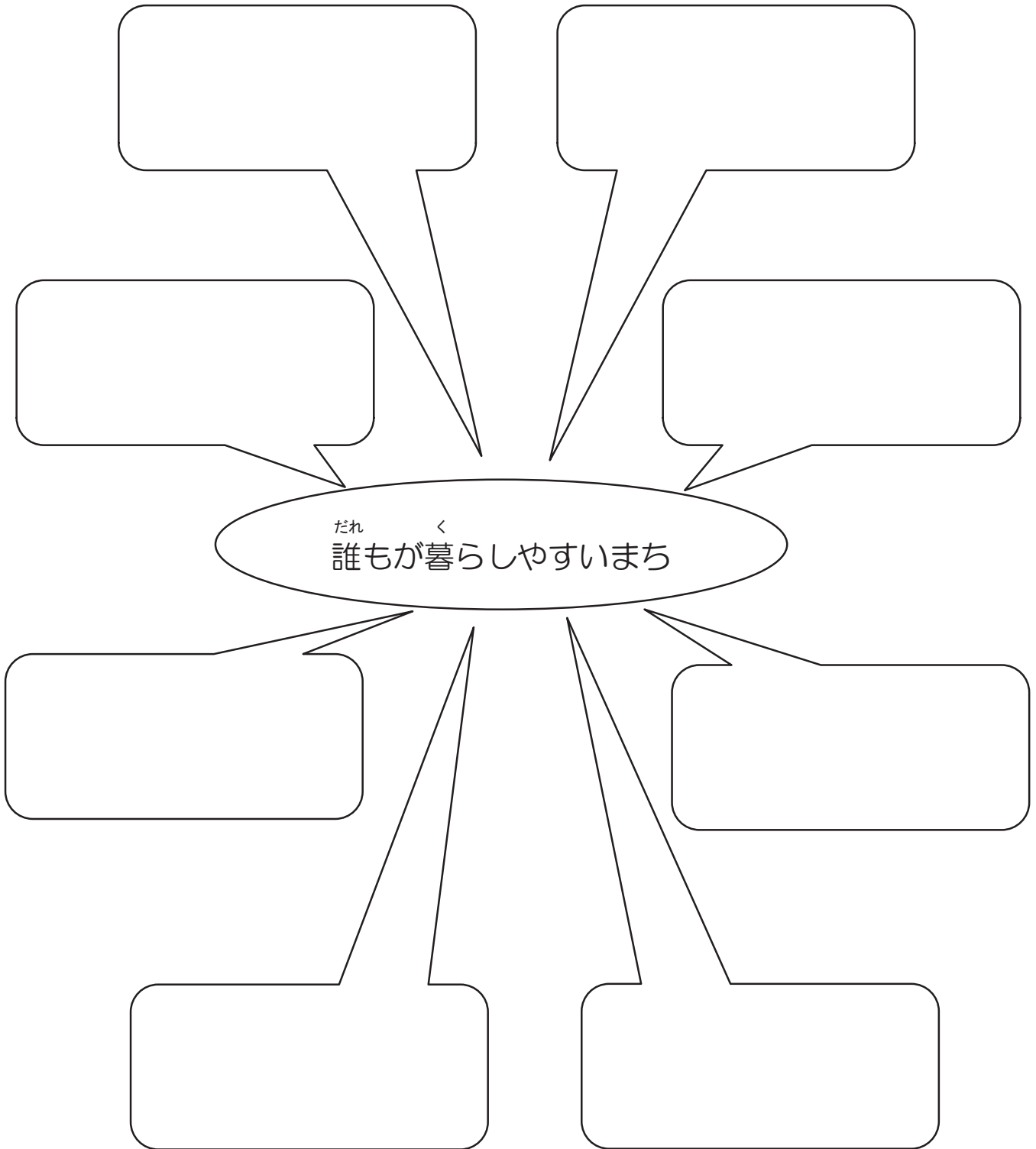
障がいへの理解と手助け

視覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> ●言葉で伝えよう <ul style="list-style-type: none"> ・見ている世界を言葉にして伝えましょう。 ・視覚障がいのない人の方から声をかけるようにしましょう。 ・位置の説明に「あっち」、「こっち」を使わないようにしましょう。 ●見えない人のルールを守ろう <ul style="list-style-type: none"> ・点字ブロックの上に物を置くのはルール違反です。
聴覚・言語障がい	<ul style="list-style-type: none"> ●話すときはこんなことに注意して <ul style="list-style-type: none"> ・相手の正面に回ってから目を合わせ、注意を向けてから話しましょう。 ・何について話すか、示してから伝えましょう。 ・目で見てわかるものを使って話しましょう。（手話、筆談、身振り） ・相手にわかるように、根気強く、丁寧に話しましょう。 ・話したいことが、伝わったかどうか確認しましょう。 ●相手の話をきちんと聞くことも大切 <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく伝えることも大切ですが、相手の言っていることをきちんと聞くことも大切です。 ●遮ったりからかったりしない <ul style="list-style-type: none"> ・その人の話を遮って言い直したりからかったりしてはいけません。最後までゆっくりと聞くようにしましょう。 ●短い言葉、わかりやすい表現を使う <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達が遅れている人には、その人が話す言葉や会話の長さに合わせて短い言葉で話しかけると伝わりやすいでしょう。また、言葉は省略せずに、わかりやすくはっきりと伝えましょう。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> ●手助けが必要かどうか聞きましょう <ul style="list-style-type: none"> ・本人や付き添っている人などに「お手伝いしましょうか」と声をかけることが大切です。 ●車いすの人への手助け <ul style="list-style-type: none"> ・いきなり車いすを押すのではなく、声をかけてから押し、止まる時も、一声かけます。また、止まったときには、しっかりブレーキをかけましょう。 ・車いすを押す前に、乗っている人の足がしっかりと足を置く台に乗っているか確認します。 ・押すときには、前方や左右を確認してから押しましょう。 ・話しかけるときは、目線をできるだけ目の高さに合わせるようにしましょう。
知的障がい	<ul style="list-style-type: none"> ●言葉と一緒に身振りや絵などを使う <ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけではなく、身振りや絵などを使うと伝わりやすくなります。 ●答えやすい聞き方にする <ul style="list-style-type: none"> ・「どうする?」「どう思う?」ではなく、「イチゴが好き? メロンが好き?」など、答えを選ぶ形に変えることで答えやすくなります。 ●理解すること、許すことも大切な手助け <ul style="list-style-type: none"> ・その人がどうしてもそうしてしまうのだということを理解し、また、自分が何か迷惑を被ったとき、許すことも大切な手助けになります。
精神障がい	<ul style="list-style-type: none"> ●周囲の援助はどうしたら <ul style="list-style-type: none"> ・無理な励ましは、本人のストレスになることがあります。 ・働きかけは、具体的に、はっきりと簡潔に伝えましょう。 ・本人のペースに合わせた働きかけが必要です。 ・じっくりと時間をかけることも必要です。

ワークシート例

とっとりけん う うんど う しょう ひと ひと だれ
鳥取県で生まれた『あいサポート運動』は、「障がいのある人もない人も、誰もが
く ちいきしゃかい きょうせいしゃかい いっしょに うんど う
暮らしやすい地域社会（共生社会）をみんなで一緒につくっていく運動です。

かんが だれ く
あなたが考える「誰もが暮らしやすいまち」とはどんなまちですか。



1 障しょうがいのある人ひとの生活せいかつについて

☆ DVDをみてわかったこと

2 障しょうがいのある人ひとを助たすける道具どうぐについて

☆ DVDをみてわかったこと

3 誰だれもが暮くららしやすい社会しゃかいをつくるために

☆ わたしやまわりの人ができることや大切にしたいこと

☆ まちのなかでくふうできること

<p>知って欲しいこと</p>	<p>こんな配慮をお願いします</p>
<p>《障がいの特性など》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えなかったり、見えにくい障がいです。 ・必要な情報や知識を得るためには『点字』という特別な文字を指で読んだり、『音訳』といって他の人に文を読んでもらったりしています。 ・外出するためには『白杖』^{はくじょう}を使いますが、『ガイドヘルパー』や『盲導犬』も目の代わりとして活躍しています。 <p>《困っていること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で移動することが困難です。 ・耳からの情報をたよりにしています。 ・自分がどこにいるのか、そばに誰がいるのか、説明がないと分かりません。 ・人の視線や表情が理解できず、コミュニケーションに苦労します。 ・文字の読み書きが困難です。また、タッチパネル式の機械はうまく操作できません。 ・点字ブロックの上に、物や自転車などが置かれると困ります。 ・「見えないからできない」のではなく、「見えなくても教えてもらえればできる」ことが多くあります。 	<p>●困っていそうなときは、声をかけましょう</p> <p>白杖使用者を見かけたとき、困っているように見えたら声をかけましょう。</p> <p>視覚障がいのある方は、周りの状況がわからないため、会話が始められないことがあります。</p> <p>また、知っている相手でも声だけではわからないことがあります。声をかける時は、自分の名前や「あいサポーターです」など簡単な自己紹介をしましょう。</p> <p>●突然体にふれず前方から声をかけましょう</p> <p>突然触れると驚きます。声をかけるときは、できるだけ前方から話しかけましょう。</p> <p>また、点字や音声による情報をできるだけ増やしましょう。</p> <p>●指示語を使わないでください</p> <p>「こちら、あちら、これ、それ」などの指示語や、「赤い看板」など視覚情報を表す言葉では、「どこ」か、「何」かわかりません。「30センチ右」「時計で3時の方向」など具体的に説明しましょう。場合によっては、手で触れながら説明しましょう。</p> <p>●その人の「目」になる気持ち大切です</p> <p>まず、どのような手助けが必要か尋ねましょう。</p> <p>例えば、慣れていない場所では、左腕や肩に触れてもらって誘導することができます。</p> <p>誘導するときは、障がいのある方のペースにあわせて歩きましょう。</p>